

# Infinity Vol.23

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2026.08.25 発行

発行元  
龍谷大学 社会学部  
社会共生実習サポートデスク

〒612-8577

京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学社会学部教務課

社会共生実習サポートデスク

TEL:075-645-2304

FAX:075-585-6377

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

「地域エンパワねっと・大津中央」では、滋賀県大津市の中心市街地の住民の皆さまとのコラボを通じて、地域活性化に取り組みます。課題を地域住民との対話をとおりて学生自身が見つけ出し、その課題解決に向けて活動します。今年度の受講生たちは、4月から活動フィールドについての学びを深め、現在は自身の興味関心に基づいて実習テーマを絞っている段階です。地域活動に参加した受講生からレポートが届きましたので紹介させていただきます。

## ■土井美緒さん(現代福祉学科3年生)

7/18(土)に、中央学区子ども会育成連絡協議会の主催するキッズクラブの活動で、オーパルオペテックス株式会社が提供する「カヌー体験・びわこ環境学習」をお手伝いとして参加させていただきました。

びわ湖でカヌーを楽しみながら、どんな生き物がいるのかを知ることができ、自分が育った地域に愛着を持てるような工夫がされていると感じました。

また、保護者同士も子どもたちについての会話を楽しんだり、情報交換をしたりする姿が見られました。

そこから、このイベントが地域全体で子どもを見守る環境づくりにつながっていることを実感しました。

私たちは保護者が付き添えない子どもと一緒にカヌーへ乗り、この体験がなんらかの形で子ども自身の自信に繋がるよう声をかけながらサポートしました。会話の中から笑顔が増え、楽しみながら自分の育っている環境に触れていく姿がとても印象に残っています。

また、年上の子が年下の子を気にかける場面も見られ、地域活動ならではの学び合いの機会になっていると感じました。一方で、運営側の高齢化による人手不足という課題も感じました。活動中の保護者との何気ない会話からは、活動への参加には前向きである一方、下の子の育児や仕事などがあり、運営まで担う時間を確保することは難しいという現状もうかがえました。そのため、地域活動を継続していくためには、現在の運営メンバーだけに負担が偏らないよう、学生や地域住民など多様な世代が無理なく関われる仕組みづくりが必要であると感じました。

今回の活動を通して、地域活動は子どもに体験の機会を提供するだけではなく、保護者同士や地域の人とのつながりを深める大切な場でもあることを学びました。また、そのような活動を継続していくためには、地域が抱える課題にも目を向け、現場の声を少しずつ聞きながら信頼関係を築いていくことが重要であると感じました。今後も子ども一人ひとりが安心して挑戦できる環境づくりや、地域全体で子どもの成長を支える視点を大切にしながら活動に参加していきたいです。

## ■西河直人さん(社会学科4年生)

7/19(日)に、滋賀県のびわ湖浜大津駅にて定期的に開催されている「浜大津こだわり朝市」に参加し、出店者へのインタビューや撤収作業の手伝いを通じて地域活動を体験しました。当日は、スーパーマーケットやコンビニでは手に入らない、地域のこだわりが詰まった品々を求めて多くのお客さんが来ており、朝市ならではの賑わいを感じることができました。また私自身もちりめん山椒や古代米を使った餅などを購入・実食し、各店舗の地域のこだわりを感じることができました。その一方で、「周辺住民の利用が少ないこと」や「運営陣の高齢化」といった課題があり、何らかの変革が必要ではないかと思いました。

わたしたちは、「浜大津こだわり朝市」が開催される毎月第三日曜日に定期的に参加しながら、主催者である「まちづくり大津」の方々と今後の展開を模索します。本実習は残り半年ほどであり、どこまでこの「浜大津こだわり朝市」にアプローチすることができるか分かりませんが、より良い「浜大津こだわり朝市」になるように協働していきたいと思います。



地域活動への参加を経て、受講生たちは今後の実習活動につながるたくさんのヒントや気づきを持ち帰ってくれたようです。

それらを今後どのように展開させて後期の活動につなげてくれるのか、楽しみにしたいと思います。

# 「農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」」

では、実習先である滋賀県栗東市のNPO法人「縁活」で、障がい者が農業に携わる農福連携事業に関わることで、受講生が地域づくりの活動を経験・展開しています。NPO法人「縁活」の事業には、障害者の就労支援事業(就労継続支援B型)「おもや」やレストラン(飲食部門)「オモヤ☆キッチン」、「おもや農園」などが挙げられます。

5/22(金)には、オモヤキッチンで提供する料理やおもやの利用者・スタッフの給食に使う味噌を仕込む工程をお手伝いさせていただけるということで、おもやの第2拠点として2023年8月に滋賀県栗東市内の山間地に開所された「あるきだす」にお邪魔しました。



この日作業に参加していた利用者の方々は味噌づくりの経験も豊かで、受講生と終始楽しく会話しながら作業を進めてくださいました。受講生も、実習を重ねて顔見知りが増え、楽しく作業出来たようです。

丁寧に混ぜられた材料は大きな樽に隙間なく詰めて封をして、作業したみんなで名前を書き込みました。今回仕込んだ味噌は今年の9~10月頃に食べごろを迎えるとのことでした。出来上がりが大変楽しみです。10月を過ぎた頃にオモヤキッチンでお食事をされる機会があれば、今回仕込んだ味噌



噌を使った自慢のお味噌汁などにぜひ注目してください！

6/1(月)には、地域社会とのつながりを広げる活動として、おもやの地元である滋賀県栗東市の大宝神社(だいほうじんじや)の「朝市」に参加しました。朝市には、おもやと縁のある方々や、大宝神社にお参りに来られる方など、さまざまな人たちが集まります。本プロジェクトの受講生もおもやの利用者さんと一緒に焚火をおこして朝市を訪れる地域の方々と会話を楽しみ、地域社会の交流の輪を広げるとともに、神社と朝市が多様な人たちをつなげていく強い印象を受けました。



## 「お寺の可能性を引き出そう！ー社会におけるお寺の役割を考えるー」

では、お寺の社会活動に参加しながら、地域におけるお寺の役割と可能性を考えます。今年度の受講生たちは、京都御所のほど近くにある清浄華院(しょうじょうけいん)で11月14、15日に開催されるイベント「LOTUS WEEKEND(ロータスウィークエンド)2026」に企画立案のタイミングから参画することになりました。お寺の一角をお借りして、学生企画を実施します。

5/29(金)には、イベントの趣旨と背景への理解、学生への要望等を伺うため、清浄華院から兼岩和広さん(浄土宗大本山清浄華院 執事)をお招きしました。清浄華院の歴史についてや、「LOTUS WEEKEND」の成り立ちや2026年度のテーマなどをお話いただきました。

「LOTUS WEEKEND 2026」のテーマは「家族」、「秋の清浄華院ー弥陀の光が家族を包む」です。バイマーマンジンさん(14日)、岸田奈美さん(15日)による「家族」をテーマにした講演も予定されています。このほか、プロの歌手のステージやご法話、地獄絵巻解説、仏像体験、特撮体験、キッチンカーの出店やマルシェなど、盛りだくさんのイベントです。

受講生たちからは、企画立案のヒントとするため、どのような来場者が来ることを期待しているのかなどの質問が出ました。兼岩さんからは、「いろんな人に来ていただきたい」、「お寺に行ってみたいと思えるようなコーナー案を聞かせてほしい」などといったご希望やご要望をいただきました。

これを受けて、受講生からはさっそく、「家族」というテーマに沿ったアイディアが出されました。そのなかで、ご自宅に「弥陀の光」を持ち帰ってもらい、「家族」のもとに届けられたらという発想から、キャンドルづくりなどの体験型コーナーを設けてはどうかなどといった提案が出ました。



兼岩和広さん

今回の打ち合わせでは、「阿弥陀様の光を家に灯す」をコンセプトに、「光」を発するオブジェを来場者に製作してもらい、それを持ち帰ってもらうという方向性が固まり、具体的に何を制作するかアイディアを出し合いました。

6/12(金)には、さらに企画を明確にするため、「LOTUS WEEKEND 2026」の共同プロデューサー兼総合MC 兼演者である佐合井マリ子さん(シンガーソングライター)をお招



佐合井マリ子さん

きして打合せの場を設けました。そのなかで、お寺の状況や佐合井さんの思いをうかがうことができました。また、受講生たちが考えていた具体的な案を紹介し、佐合井さんと意見を交換できました。その結果、「まずは試作をしよう」「現場を見よう」という結論に至ったのは、大きな進捗でした。まだぼんやりしていた受講生たち企画案のイメージも鮮明になってきました。また、佐合井さんからは、「作業工程の実現可能性だけでなく、その制作の過程をも思い出として持って帰っていただけるようなストーリー性をつけることも考えてみてはどうか」という素敵なアドバイスもいただきました。

本プロジェクトでは、今までいくつかの寺院の地域活動を知って、お寺の想いやイベントの企画立案、運営サイドの視点などを学んできました。

後期に実施する「LOTUS WEEKEND 2026」の学生企画においては、これまで学んできたお寺の方々の思いや実践の工夫を踏まえて、参加者の心に残るような企画を立案することが、清浄華院のみなさんからも期待されています。



これまでの学びをもとに、最終的にどのような学生企画が誕生するのか楽しみにしたいと思います。

Webサイト・SNS では  
最新の情報を随時更新中♪  
ぜひご覧ください！



社会共生実習  
Webサイト



社会共生実習  
X



社会共生実習  
Instagram



社会共生実習  
Facebook